

ペテロの失敗・夜明け後の裁判・ユダの死・ローマ法による裁判

最後の一週間の出来事

ユダヤ暦ニサンの月

紀元30年4月7日

| 10日(日) | 11日(月) | 12日(火) | 13日(水) | 14日(木) | 15日(金) |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | | | | † |

エルサレム入城

- 11日、いちじくの木のかげと宮きよめ、ギリシヤ人の面会希望と「一粒の麦」の教え
- 12日朝、枯れたいちじくの木を前に祈りの教え
- 12日、小羊の吟味 (イエスの権威に対する4つの挑戦とメシア神性の教え)
- 弟子たちに終末預言の教え、オリーブ山での説教。十字架の死を予告する。
- 水曜日の夜の出来事は、二つ。
 - (1) オリーブ山からベタニヤに戻り、シモンの家で夕食。マルタが給仕し、ラザロも食卓に。マリヤによる香油注ぎ、これがイエスの埋葬準備となる。
 - (2) マリヤによる香油注ぎに反対したユダは、イエスから叱責を受ける。夕食の席を抜けてエルサレムの祭司長たちのもとへ。銀貨30枚でイエスを売約する。
- 水曜日の夜明けから日没まで、そして木曜日の夜についての記事は、ない。
- 木曜日の夜明け、14日は過越の食事を準備する日。
 - (1) 羊の肉以外の食材を用意する。
 - (2) 過越の小羊を神殿でささげ、肉を持って帰る。14日の午後3時から6時にかけて。
- 弟子たちが過越の食事を準備をする。場所は、あらかじめイエスが手配していた。
- 日没後は金曜日15日である。イエスと弟子たちは過越の食事の席につく。
- イエスと弟子たちの過越の食事、伝統的なユダヤの手順に沿う。ユダの裏切りの予告が3回されユダが席を抜けたあと、第三の杯(贖いの杯)のときに新しい契約の宣言。
- 過越の食事の後、二階部屋での説教
- イエスと弟子たちは二階部屋から出発、エルサレムの町を出て、ゲッセマネの園に向かう。ゲッセマネへの道すがらの教え、「まことのぶどうの木とその枝」。
- ゲッセマネの園に近づいた辺りで、イエスが大祭司としての祈りをする。
- 15日(金)夜10時~11時頃、ゲッセマネの園での祈り
- ゲッセマネの園で、イエス逮捕
- 深夜から夜明け後にかけて、ユダヤ法による裁判
 - (1) 前の大祭司アンナスによる審問
 - (2) 大祭司カヤパの前での裁判(指導者側に逮捕・裁判の過程で22件のユダヤ法違反)
 - (3) ペテロの失敗
 - (4) 夜明け後、サンヘドリンの前での公式裁判
 - (5) ユダの死
- 15日早朝から午前6時頃までの間、ローマ法による裁判

前回は、14番から16番(2)まで。今回は、16番(3)から17番まで。

聖書箇所

1. ユダヤ法による裁判 (大祭司の官邸において)

(1) 前の大祭司アンナスによる審問 (ヨハ 18 : 12~14、19~23) 官邸内の自室

(2) 大祭司カヤパの前での裁判 (マタ 26 : 57、59~68)

(3) ペテロの失敗 (マタ 26 : 57~58、69~75)

① 舞台設定 (マタ 26 : 57~58)

- ヨハ 18 : 15~17 ヨハネは大祭司の知り合い、疑われることなく官邸の中庭に入り、外で待っていたペテロを呼び入れる。門番の女中による確認。
- ヨハ 18 : 18 アンナスによる審問の間、ペテロは役人たちの間に混じって、炭火の前で立って暖まっていた。場所はおそらく出入口に近い前庭。

② 1度目の拒否 (マタ 26 : 69~70)

- 中庭での出来事。大祭司カヤパの前での裁判が始まり、ペテロは中庭に進む。ここで「女中のひとり」が指摘。
- ルカ 22 : 55~57 中庭の真ん中にたき火。中庭にいる者たちは皆座りこんだので、ペテロも中に混じって腰をおろした。女中が火あかりの中にペテロが座っているのを見つけ、まじまじと見て、指摘して言った。
- マコ 14 : 66~68 「下の庭」→ おそらく「上の庭」が裁判の場所
- マコ 14 : 68 指摘を受けて、「出口」の方へ戻る=前庭へ移動した。

③ 2度目の拒否 (マタ 26 : 71~72)

- 71節「入口まで出ていくと」=前庭。ここで、「ほかの女中」が指摘。

④ 3度目の拒否 (マタ 26 : 73~75) 2番鶏の時刻=午前3時

- 前庭で、「そのあたりに立っている人々」が指摘
- マコ 14 : 69~71 発端は1度目の女中が来て、まわりの人々に告げた。
- ルカ 22 : 58~59 「人々」とは、二人の男。一人目の男が指摘してから、二人目の男による指摘までの間には、約1時間の時間的間隔。
- ヨハ 18 : 25 ペテロは、18節のときと同じように役人たちの間に混じって、炭火の前で立って暖まっていた。
- ヨハ 18 : 26 二人目の男は、イエス逮捕時にペテロに耳を切り落とされた人の親族。イエス逮捕に同行しており、ペテロを目撃していた。
- マコ 14 : 72a ペテロが3度目の拒否をしたときに、二番鶏が鳴いた。

⑤ イエスが振り向いてペテロを見つめられた (ルカ 22 : 61)

- ペテロは前庭に立っている。中庭にいる人々は皆座っている。イエスは上の庭にて裁判を受けている。一番奥の席に大祭司、それに向かってイエス。ペテロはイエスの背中を見る位置にいたが、二番鶏が鳴いたときに、イエスが振り向いて、ペテロを見つめた。
- ペテロは、「きょう、鶏が二度鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う」と言われたおことばを思い出す。

⑥ ペテロは外に出て、激しく泣いた (ルカ 22 : 62、マタ 26 : 75、マコ 14 : 72)

- ペテロは前庭から門を通過して、官邸の外に出た。そこで激しく泣いた。

- (4) **夜明け後、サンヘドリンの前での公式裁判** (ルカ 22 : 66~71)
- ① 世が明けてからの公式の裁判
 - ② 「民の長老会、それに祭司長、律法学者たち」とはサンヘドリンの議員たち
 - ③ 「議会に連れ出し」とは、サンヘドリンの裁判に出廷させるということ。本来は、神殿の裁きの間で行うべきところ、移動せずに大祭司の官邸の「上の庭」で開いた。
 - ④ 「あなたがメシアなら、そうだと言いなさい。」= 訴因を「メシアと自称し、民を扇動して、ローマに反逆を企てた」とする狙い
 - ⑤ イエスの回答
 - 「わたしが言っても、あなたがたは決して信じないでしょう」= イエスをメシアとして受け入れるかどうかは、信仰による事である
 - 「わたしが尋ねても、あなたがたは決して答えないでしょう。しかし今から後、人の子は、神の大能の右の座に着きます。」= 小羊の吟味における最初と最後の論点。そのときの論戦の当事者たちは祭司長たち、長老たち、律法学者たち。すなわち、この裁判の席にいるサンヘドリンの議員たち。
 - ⑥ 「では、あなたは神の子ですか」「わたしはそれです。」神性宣言
 - ⑦ この裁判での有罪理由は、イエスが自らを神と等しいと主張したとする「冒瀆罪」。しかし、ローマ法のもとではこれは死刑には当たらない。ローマ法での裁判では、治安を脅かしたことを訴因とする必要があり、「神殿を破壊すると言った」ことを理由に告訴する予定。その告訴人がユダ。しかし、彼が死ぬ。
- (5) ユダの自殺 (マタ 27 : 3~10)
- ① 9 節 エレミヤの預言=エレミヤ 7 : 30~34→紀元 70 年に現実になった
 - ② 銀貨 30 枚の値積りと陶器師の畑を買う預言は、ゼカリヤの預言であるが、これはメシア拒否の預言。その結果は、紀元 70 年のエルサレム崩壊。
 - ③ ユダの死と葬りは、メシアを拒否して滅びる不信仰のユダヤ人たちの先駆け
 - ④ ゼカリヤの預言は、エレミヤの預言の枠内にあることを、マタイは示す

2. ローマ法による裁判

- (1) **ピラトによる裁判** (ヨハ 18 : 28~38)
- ① 舞台設定 (ヨハ 18 : 28)
 - ② ピラトとユダヤ人の指導者たち (ヨハ 18 : 29~32)
 - ルカ 23 : 2 ユダヤ人指導者たちは、3つの訴因を提示した。
 - ピラトは3番目の訴因のみを取り上げる。→「あなたはユダヤ人の王か」
 - ③ ピラトとイエス (ヨハ 18 : 33~37)
 - ④ ピラトが出した結論 (ヨハ 18 : 38) = 無罪宣言 (ルカ 23 : 4)
- (2) ガリラヤとペレヤの国主、**ヘロデ・アンティパスによる裁判** (ルカ 23 : 5~12)
- ① 11 節 はでな衣=ユダヤ人の王が着る白い王服 (推測)
 - ② ヘロデのその後：ヘロデの前の妻の出身国 (ナバテヤ、父はアレタ 4 世、II コ

リ 11:32「アレタ王」)との戦いで敗れ、勢威が陰る。妻のヘロデヤの野心に動かされて、ローマ皇帝カリグラ(在位、紀元37年~41年)に接近、王と王女のタイトルを願い出た。結果は逆に、紀元39年国主の地位をはく奪され、ヘロデ夫婦は国外追放となり、極貧の中で生涯を閉じた。

(3) **ピラトによる2回目の裁判** (ヨハ 18:39~19:16)

① 3度目の無罪宣言 (ヨハ 18:39~40) 祭り恒例の赦免はイエスカバラバか

| | マタイ | マルコ | ルカ |
|-----|----------|----------|----------|
| 第1R | 27:15~20 | 15:6~11 | 23:13~19 |
| 第2R | 27:21~22 | 15:12~13 | 23:20~21 |
| 第3R | 27:23 | 15:14 | 23:22~23 |

バラバ=バル アバ「(よく知られた)父の子」

本名はイエシュア(紀元200年頃の神学者オリゲネスの文書に記載)

② 4度目の無罪宣言 (ヨハ 19:1~7)

- むち打ちは、群衆を満足させてイエスを釈放するための方策
いばらの冠と紫色の着物

③ 5度目の釈放の努力 (ヨハ 19:8~12)

④ 6度目の釈放の努力 (ヨハ 19:13~16)

- ピラト、判決の席に着く。第6時頃=ローマ時間で午前6時頃
- マタ 27:24~25 (25節の成就是、紀元70年のエルサレム崩壊)
- ルカ 23:24~25

⑤ 裁判の総括=マタ 27:26、マコ 15:15

(4) ローマ兵たちによる侮辱 (マタイ 27:27~30、マコ 15:16~19)

① 緋色の上着・いばらの冠・右手に葦

報告

門司港レトロ集会へのサポート献金は10月からの繰越金が2,000円、11月の献金は、熊本集会において16,100円、福岡集会において105,000円の計121,100円でした。この中から門司港レトロ集会に11月20日3万円の支援をして、本日現在の繰越残高は、93,100円です。門司港レトロ集会は、目下、30番目のフォーラムとして開所申請の予定です。

↓
決定、開所式 2017年3月4日(土)
19:30~